

## 編集後記

『記録と史料』第22号をお届けします。編集・出版委員会から広報・広聴委員会へと移行して3年目（2期目）。今号は、寒川文書館を事務局に編集を行った最初の号となります。

さて、今号は「東日本大震災と記録資料」「公文書管理法の施行」と題する特集を、各々3本合わせて6本の原稿で組むことができました。東日本大震災と公文書管理法施行への対応は、全史料協の活動の真価が問われる大きな問題です。幸いにそれぞれのお立場から巻頭を飾るにふさわしい原稿を頂戴しました。また、震災への対応については、資料ふあいるに、「東日本大震災における機関会員の安否確認情報」を転載しています。まずは、ご一読ください。その上で、全史料協の会員としてこの二つの問題に対して、何ができるか、どう連携していくかを考えるヒントにさせていただけたら幸いです。

研究には、2本の論考を掲載することができました。「地方分権時代の文書管理」と題する清水論考は、評価選別の「見える化」に対する試論を展開されています。引き続きこの研究を期待したいところです。「学校統廃合と学校アーカイブズの保存」と題する山本論考は、学校を取り巻く現状分析から今後の管理のあり方まで新潟県を事例に論を展開さ

れました。学校が所蔵する資料についての論考として、大いに評価したい論考です。

アーキビストの眼には、調査・研究委員会主催によるセミナーの概要報告、毛塚氏の国際シンポジウム参加記を投稿いただきました。世界の窓の2本を含めて、全史料協の活動の「広がり」という点で本号にふくらみを持たせました。

アーカイブズネットワークは4本、書評と紹介は3本となりましたが、ご無理を申し上げた執筆者がおられます。この場を借りてお礼申し上げます。

刊行物情報はスタイルを変えて見やすくなったことと思います。ただ、内容の充実は会員諸氏からの情報によります。次号では未掲載の館がないように編集をしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

<伊藤ヤ>

〔広報・広聴委員会〕

大久保 邦夫（委員長）

伊藤 康（編集長）

相京 眞澄 伊従 保美

金原 祐樹 五島 敏芳

白井 哲哉 和田 義久

高木 秀彰

記録と史料 第22号 平成24年3月31日

編集： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 広報・広聴委員会

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1 寒川文書館

電話 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

発行： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（会長 井口 和起）

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4 京都府立総合資料館

電話 075-723-4834 FAX 075-791-9466

印刷： 株式会社 グラフ

〒254-0014 神奈川県平塚市四之宮6-8-1

電話 0463-54-8000 FAX 0463-54-8833